

- (1) Fairtrade and equitrade represent two very different – and, on the surface, competing – economic models of helping the poor. Equitrade, says Mr Kelsall, tries to improve the quality of life of the majority of people in a poor country by increasing the money in the economy. Fairtrade, on the other hand, concentrates on helping a small group of marginalised people – the growers. One intervenes in the market with a premium price; the other is essentially benign free trade. In response, a spokesman for the Fairtrade Foundation says, “We’d love more chocolate to be manufactured in developing countries. It’s good that there are other initiatives. The two models are not mutually exclusive. The real problem is that almost all of the world’s chocolate is in the hands of just three companies.”

【訳例】Fairtrade と Equitrade は、貧しい人々を救済するための、とても異なった、そして一見すると競合しているようにさえ見える、2 つの経済モデルである。Kelsall 氏曰く、Equitrade は貧しい国の経済により多くのお金を行き渡らせることによって、その国の大多数の人々の生活の質を改善することを企図している。他方、Fairtrade は疎外された少数のグループ、つまり農業者の救済に焦点を当てている。一方（後者）はプレミアム価格を支払うことによって市場に介入するものであり、他方（前者）はつまるところ「慈悲深い自由経済」なのである。これに対し、Fairtrade Foundation（フェアトレード財団）の広報担当者は次のように話している。「私たちはもっと多くのチョコレートが発展途上国内で生産されることを切望しています。[私たちの Fairtrade とは別に] 他のイニシアチブがあるのはよいことだと思います。この 2 つのモデルは互いに排除しあうものではありません。本当の問題は、世界中のほとんどすべてのチョコレートがたった 3 つの企業の手にあるということなのです」

【解説】①Fairtrade には「フェアトレード」や「公正貿易」などの定訳があるが、Equitrade はまだ新しい概念なので、無理に訳をつくる必要はない。カタカナ語でも OK。very different と competing は対立する語ではない。on the surface と断ったうえで後者を追加したのは、違いを「さらに」強調するため。② in the economy は「経済一般」ではなく、定冠詞がついていることから、the economy of a poor country であることがわかる。貧しい国の経済に存在するお金を増やすということは、国内で加工まですることによって、従来は先進国（輸入国）に吸い上げられていた付加価値（利益）を当該国でつくり出し、そこにとどめるということ。あるいは、当該国に「お金が落ち、循環する」ということ。「通貨量」というのは金融用語なので、不適切（＝currency）。③ one と the other が指している内容が前の文章と順番が入れ替わっていることに注意。プレミアム価格は、市場価格に上乗せするものであるから「市場への介入」になる。また、free trade は fair trade ではない、という基本的な理解を共有できていなければ、「優しい、慈悲的な」という形容詞の意味がわからない。つまり、free trade は本来的に優しくも慈悲的でもなく、弱肉強食の競争を是とし、強者の論理を貫徹するものである、ということ。④ in response は慣用句。直接に面と向かって反応ないし返答したわけでは必ずしもない。前文を受けて、「これに対して」という軽いニュアンス。⑤ We would love more chocolate to be manufactured in developing countries を正確に理解できるかで、英語力（センス）の違いがよくわかる。但し、文法的にはきわめて基本的な構造である。チョコレートが好きなわけではない。また、would の挿入によって、この文章に仮定法的なニュアンスが込められていることが分かる。現実にあるチョコレートではなく、今後の展望として、より多くのチョコレートが途上国（生産国）内で加工されるのならば「それが望ましい」ということ。⑥ initiative は無理に日本語にしなくてもよい。但し、カタカナ語の「イニシアチブ」自体、いろいろな意味をもっているが、ここでは fairtrade や equitrade のような事業構想や進取的取り組みのことである。⑦相互排他的ではないという表現 not mutually exclusive は覚えておいて損はない。⑧最後の一文はほとんどの人が訳せていた。

- (2) Today the Caribbean Island of St Lucia where bananas are not so much a crop but a way of life is celebrating. Just about every St Lucian banana sold for export now commands a premium price and European supermarkets are queuing for more. Money is going into run-down schools, the banana sheds are being repaired and the farmers can scarcely believe the turnaround in their fortunes. What has caused this banana boom in the face of British government desertion is not the revamping of the trade rules but the public's seemingly insatiable taste for ethical trading and supermarkets' desire to become better global neighbours.

【訳例】バナナが「たんなる作物」というよりはむしろ「生活様式」でもあるようなカリブ海の島国、セントルシアは今、喜び（お祝いムード）に満ちている。輸出に向けられるセントルシア産バナナのほとんどすべてにプレミアム価格が付けられており、ヨーロッパのスーパーマーケット [チェーン] はさらに多くのバナナを調達しようと列をなしてやってくる [からだ]。[そして] 得られたお金は荒廃した学校 [再建] のために使われ、バナナ小屋（納屋）も修繕されている。農民たちは彼らの運命が [これほどまでに] 好転したことをにわかに信じられないでいる。英国政府が手を引いた（支援を打ち切った／優先的輸入枠を撤廃した）にもかかわらず、こうしたバナナブームが訪れた理由は、貿易ルールが改善されたためではなく、倫理的取引に対する、飽くことのないようにも見える人々の志向性と、「世界のよりよき隣人」として振る舞おうとするスーパーマーケット [チェーン] の願望にある。

【解説】①穀物く作物。バナナは農作物であっても、穀物ではけっしてない。a way of life は「生き方」「生き様」「生活のあり方」など。かつて水田農業がモンスーンアジア地帯でそうであったように、あるいはメキシコにおけるトウモロコシがそうであるように、そうした農作物生産が生活と文化の中軸に位置づけられている様子を表している。celebrating は自動詞として使われているから、誰か（何か）を称賛しているわけではない。また、「有名になっている」という訳が散見されたが、これは「celebrity（セレブ）」から類推したものと思われる。たしかに有名になっている側面も否定できないが、ここでは誤訳である。② command a premium は決まり文句。この場合、command 自体に強い意味はない。「スーパーマーケットに客が列をなしている」等の訳が散見されたが、主語はあくまでも supermarkets であり、動詞は queue である。より多くのバナナ (more) を求めて、欧州の小売企業がこぞってカリブ海の島国にやってきている様子を表現している。③ run down や sheds については辞書で確認しておくこと。前者は本来ならハイフンでつなげるべきだが、本文ではそうならないため、いくつかの誤訳につながったと思われる。後者については、動詞とは違った意味が名詞にあることに注意。品詞を跨いで勝手に意味をつくらないこと。scarcely は hardly などと同様、「ほとんど～ない」という意味。「ほとんど信じられないでいる」ということ。turnaround は一般的には「方向転換」を意味するが、とくに業績等については「好転」を意味する。仮に「悪い内容からいい内容へ」という方向性を特定できなくても、定冠詞がつけられていることから、これ以前の文章で語られていること、つまり「運命の好転」を指していることがわかる。④ in the face of は慣用句で、「～に直面して」「～にもかかわらず」という意味。これは英文記事全体を読んだことがなければ具体的な意味はわかりようがないが、desertion が「放棄、捨て去ること」と知っていれば類推できる。英国政府にセントルシアが「見捨てられた」ことに直面して、「それでもなお」バナナブームが生じていることの理由を述べている。その後は、単純な not ~ but ~ の構文。但し、seemingly insatiable の意味がとれていない訳が散見された。taste は字句通りには「嗜好」だが、desire と同様に「志向性」や「渴望」の意味を込めている。バナナなので洒落た表現を使ったと思われる。